



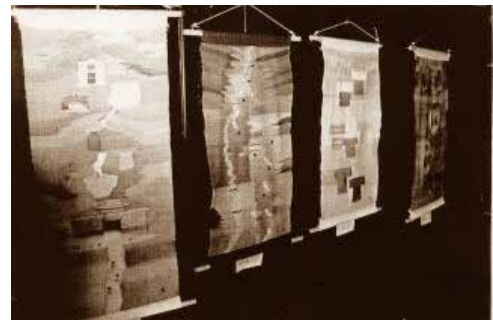
財団法人柳田國男・松岡家
顕彰会記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原 1038
の12
電話：0790-22-1000

兵庫 岐阜 京都
タペストリー
に織り込む

3つのふるさと展

ただいま、福崎町在住の工芸染織作家・伊吹佳三氏によるタペストリーの作品展を開催中です。永住の地として選び愛し続ける兵庫と、少年時代を過ごした岐阜、生まれ育った京都の風景を色彩豊かに織り上げた作品の数々です。ぜひ、この機会にご覧ください。

期間 8月9日(土) ~ 9月15日(月)
場所 柳田國男・松岡家顕彰会記念館 2階 講義室



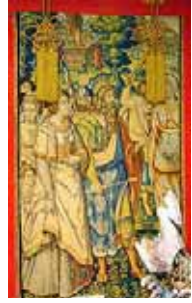
作者紹介

昭和6年京都西陣生まれ
昭和48年、第11回兵庫工芸美術展「初出品」奨励賞「受賞」
昭和49年、74県展「出品」
「神戸新聞社賞」受賞
昭和50年、第5回兵庫県美術祭「招待出品」
昭和52年、「第1回神崎郡美術作家協会展」出品

旅をするタペストリー

タペストリーの歴史は古く、紀元前3世紀から紀元前2世紀に作られた古代ギリシア風のタペストリーの一部が、中国西部のタリム盆地から発見されています。

また、祇園祭の鯉山を飾るベルギー製のタペストリーは、17世紀、伊達政宗の家臣の支倉常長がローマ法王から賜り、日本に持ち帰ったもので、5枚のうち3枚が会津藩に渡り、会津天寧寺から京都天寧寺に渡り、そこから鯉山が1枚購入したものです。遠くふるさとを離れて、タペストリーは何を思うのでしょうか。



鯉山のタペストリー

くによはん覚書

芋名月について

9月14日(旧暦の8月15日)は中秋の名月です。薄(すすき)を飾り、月見団子や里芋、御酒をお供えして、お月見を楽しむ日ですが、別名、「芋名月」ともいいます。その名の由来は諸説ありますが、最近では、里芋の収穫に感謝して行った行事がお月見の元になったという説が有力です。実は、稲作が伝えられるまで、日本人は里芋を主食にしていたそうです。

一方、柳田國男は『食料名彙』(柳田國男全集20ちくま文庫)の中で、宮崎県の一部に里芋を「ケイモ」と呼ぶ処があると紹介しています。「ケイモ」の「ケ」はハレに対するケ、つまり「日常用」ということで、里芋が昔は単なる副食物ではなかったこと、その名前から推測して



秋の特別展予告

今年の秋、記念館では「柳田國男と笑い」と題して特別展を開催します。詳細は次号でご紹介します。ですが、目玉企画は、「講演会2本立て」です。どちらの講演も、お腹の底から笑っていただけて為になる内容ですので、ぜひ、ご参加ください。



第1弾

日時 10月25日(土) 13時30分~15時

テーマ 「笑って笑って健康に」 ~世界のユーモア・コレクション

講師 大森 泰 氏
(日本笑い学会講師 元産経新聞論説委員)

第2弾

日時 11月24日(月休) 13時30分~15時

テーマ 播州弁とユーモア人生

講師 井上 四郎 氏
(播州弁研究会代表)



参加方法 どちらの講演会も事前申し込みが必要です。必ず電話かご来館にてご予約ください。

会員以外の方は入館料が必要です。電話 22・1000



ご利用案内 【開館時間】 午前9時~午後4時30分

【休館日】 月曜日 祝日の翌日、12月28日~1月4日

【入館料】 (団体割引は20名以上) 大人200円 学生150円